

令和7年度ネットリサーチ「生活意識」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- 暮らし向きの満足度については、【満足】が47.8%となっている。
- 暮らし向きの変化については、「変わらない」が43.0%で最も高い。一方で、【苦しくなった】が43.6%となっている。
- 「暮らし向きが苦しくなった」と回答した方に、苦しくなった理由について聞いたところ、「物価が上昇したため」が75.7%と最も高くなっている。

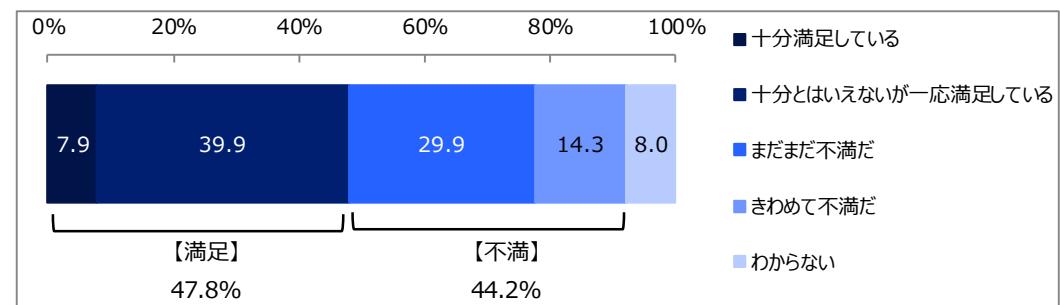
■調査結果の概要

1 暮らし向きの満足度

◆ 「十分満足している」(7.9%) と「十分とはいえないが一応満足している」(39.9%) を合わせた【満足】が47.8%、「まだまだ不満だ」(29.9%) と「きわめて不満だ」(14.3%) を合わせた【不満】が44.2%となっている。

Q1.あなたは、現在の暮らし向き（家計の状態）についてどの程度満足していますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
十分満足している	7.9	79
十分とはいえないが一応満足している	39.9	399
まだまだ不満だ	29.9	299
きわめて不満だ	14.3	143
わからない	8.0	80

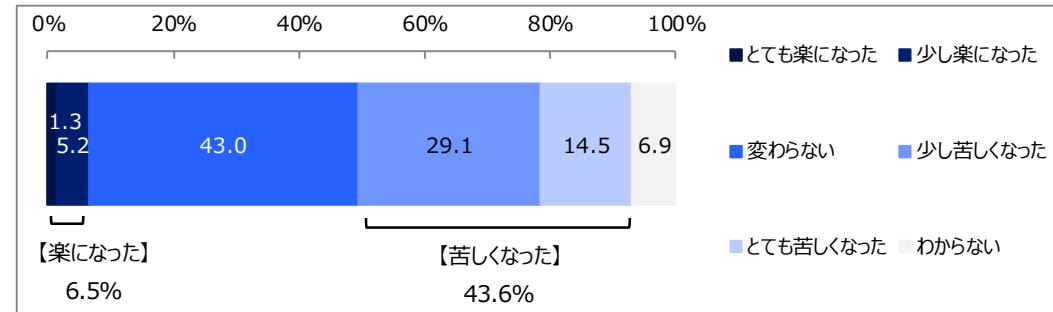


2 暮らし向きの変化

- 「変わらない」が 43.0%で最も高い。
- 「少し苦しくなった」(29.1%) と「とても苦しくなった」(14.5%) を合わせた【苦しくなった】が 43.6%となっている。

Q2.暮らし向き（家計の状態）は、昨年の今ごろに比べて楽になりましたか。それとも苦しくなりましたか。次の中からあてはまるものを 1 つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
とても楽になった	1.3	13
少し楽になった	5.2	52
変わらない	43.0	430
少し苦しくなった	29.1	291
とても苦しくなった	14.5	145
わからない	6.9	69



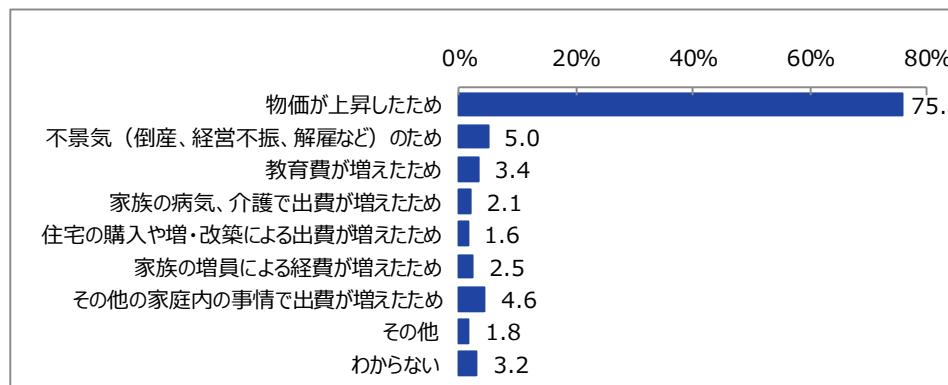
3 暮らし向きが苦しくなった理由

- 「物価が上昇したため」が 75.7%で最も高い。

(Q2で「少し苦しくなった」「とても苦しくなった」と回答された方へ)

Q3.苦しくなったのは、主にどのようなことからですか。次の中から、最も大きな原因を 1 つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	436
物価が上昇したため	75.7	330
不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため	5.0	22
教育費（授業料、習い事や塾の費用、学生の子どもへの仕送りなど）が増えたため	3.4	15
家族の病気、介護で出費が増えたため	2.1	9
住宅の購入や増・改築による出費が増えたため	1.6	7
家族の増員による経費が増えたため	2.5	11
その他の家庭内の事情で出費が増えたため	4.6	20
その他	1.8	8
わからない	3.2	14



■調査の目的

県民の生活意識や県政に対する県民の関心、要望などをとらえ、県行政の推進を図るうえで必要な基礎的資料を得るために調査を行う。

■実施概要

- ・実施期間：令和7年11月7日～11月17日
- ・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和7年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		108	248	92	365	187	1,000
性別	男性	56	127	49	189	99	520
	女性	52	121	43	176	88	480
年代別	18～29歳	16	42	16	71	34	179
	30歳代	15	42	16	61	29	163
	40歳代	21	53	19	80	40	213
	50歳代	28	61	21	86	44	240
	60歳代	28	50	20	67	40	205

県 北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県 央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿 行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県 南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県 西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

（注）

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
4. 男性18～29歳の回収件数は、全ての地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性30歳代で「県北」3サンプル、「県央」4サンプル、「鹿行」3サンプル、「県南」9サンプル、「県西」6サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。